The Japanese Association of Indian and Buddhist Studies

空見考
――『中論頌』と大乗経典との関連について――

金沢　豊

0．はじめに

龍樹（後2世紀頃）の『中論頌』（*Mūlamadhyamakakārikā*, 以下MMK）には，阿含・ニカーヤ文献への言及と影響が見られる．それは，MMK15.7で*Kātyāyanāvavāda*を取り上げていることなどから明らかであり[1]，龍樹が仏説を正しく伝える意図をもってMMKを著したことは，これまでも注意されてきた．しかし一方で，大乗経典とMMKとの関係については「MMKは般若経典類に代表される空の思想に論理を与えた」[2]という説以外にほとんど明らかではないように思われる．本稿は，大乗経典のなかでも古層に位置し，おそらく後1-2世紀に成立したと考えられる『**迦葉品**』（*Kāśyapaparivarta* Stael-Holstein's ed.）§65が[3]，MMK13.8に影響を与えていることを明らかにしたい．

1．『中論頌』第13章第8偈と『迦葉品』§65

śūnyatā sarvadṛṣṭīnāṃ proktā niḥsaraṇaṃ jinaiḥ/
yeṣāṃ tu śūnyatādṛṣṭis tān asādhyān babhāṣire//　MMK13.8
空性はすべての見解から解放する手段であると諸仏は説かれた．
しかし，空見をもつものたちは，不治であるとも述べられた．

諸仏が，空性はすべての見解から解放する手段であることを説き，空見を持つ人々は不治であると龍樹はいう．śūnyatādṛṣṭi（空見）という複合語はMMKで一度用いられるのみで，そこから龍樹の意図を知ることは難しい[4]．月称(ca.530-600)は，次のように注釈する．

本論においては，まさにすべての見解に由来するもの，すなわちすべての執着の離脱，つまり起こらないことが空性である．そして，見解に由来する（執着の）単なる止滅は有ではない．しかし，その空性さえも有と執着する者達に対して私たちは，語りかけない．ゆえに，私たちの教えにより，すべての分別を離れることにより，どうして（彼らに）

NII-Electronic Library Service

The Japanese Association of Indian and Buddhist Studies

解脱があろうか.「わたしはあなたに何も商品を与えないだろう」と言われた人が,「おお，あなたはその何もないという名の商品を私に下さい」と言うならば，どのような手段によって彼に（商品の）無を理解させることが可能だろうか．同様に空性に対しても，有という執着を持つ者達のかの有という執着は，いま何によって否定することができようか．それゆえに，優れた薬にも病因という観念があるから，最上の薬師，大医，如来方によって，まさに彼らは拒絶される．(*Prasannapadā* p.247, 3–p.248, 3)

ここには，月称の空性理解が示されている．空性とは見解に由来する執着を離脱させるものであると述べ，空性を有と執着する者たち，つまり空見者を「無い」という商品を求めるものに喩えて批難する．そしてこの直後に教証として『迦葉品』§ 64，65 を引用する[5]．そこには「空見」という語が使用され，かつ「空見を持つものは不治である」という表現があるからである．

カーシャパよ，観念に固執するものをすべて（自由な境地へ）超越させるのが空性である．しかるに，カーシャパよ，もしその空性をこそ観念化するものがあるならば，彼こそは癒すことができない者，と私は呼ぶ．そのことについて，次の詩頌がある．

たとえば, 医師が病をしずめるために, 人に解毒剤を与えるとしよう．（その解毒剤が）さまざまな病因を除いたのちも外へ出て行かないならば，それが原因となって（病気は）治癒しない．(『迦葉品』§ 65 p.97.『大乗仏典 9 巻 寶積部経典』長尾・桜部訳 p.52)

MMK13.8 を注釈する際に月称が当該の『迦葉品』に言及していることは，よく知られているが，以下で彼以前の注釈者が MMK13.8 をどのように理解していたのかを検討したい．なぜならば，現存の MMK は *Prasannapadā* から抽出したものであり，*Prasannapadā* に保存されている MMK と，龍樹の MMK とが全く同じとは限らない．よって，龍樹の意図に近づくためには，どうして空性はすべての見解から解放する手段で，空見をもつものはどうして不治なのかを *Prasannapadā* 以前に成立した『中論頌』注釈書の理解に求めなければならない．

2．注釈書の空見理解

現存する注釈書のなかでも『無畏論』と青目釈『中論』と『順中論』は成立時期が比較的早く，後 5 世紀頃に成立したと考えられる．まず，龍樹自注とも伝えられる『無畏論』は，

諸仏，世尊方は，空性はすべての見解の対治となるものだから，一切の見解から解放するものであるとおっしゃって，空性であるという見解をもつ彼らは癒すことができないと説いた．すなわち，修行者の頭上における髑髏の飾（thod pa * kapāla）のようなものである．(*Akutobhayā*, D.3829. 59a2–3)

偈頌を逐語的に繰り返すのみで，ほとんど解釈を加えていない．また，不治なる

NII-Electronic Library Service

The Japanese Association of Indian and Buddhist Studies

ものの喩えとしてカパーラに言及するのが特徴的である．青目釈『中論』は，

大聖説空法　為離諸見故　若復見有空　諸佛所不化
大聖為破六十二諸見．及無明愛等諸煩惱故説空．若人於空復生見者．是人不可化．譬如有病須服藥可治．若藥復為病則不可治．（羅什訳青目釈『中論』T30. p.18c）

偈頌の諸見を62見や諸煩惱と理解し，それらを破する手立てとして空性を説くと理解している．また空見を「空を有ると見れば」と解釈し，その例えとして，病は薬で治るが，薬が原因で病となれば，それを治す薬はないという．この喩えの典拠は記されていないが，『迦葉品』§65と同内容である．

無着に帰せられる『順中論』は，他の注釈書のように逐語的注釈ではなく，冒頭の造論の意図の直後に，MMK13.8を引用する．

彼善男子．善女人言．我知色無常．乃至識無常苦無我等．以此因縁故．是相似般若波羅蜜．非是真實般若波羅蜜．　問曰．若説色空無相無願．云何此法唯是相似．非實般若波羅蜜耶．此三解脱世尊所説．非有為故．云何彼空亦相似耶．　答曰．以取著故．　問曰．取著何法．　答曰．於色取著．於空取著．若有取著．云何得是般若波羅蜜．此取著者．豈非是見．一切諸見．皆因如來説空故斷．又復何人即見彼空．彼人復以何法對治．唯無二際．是則能除．無二際故．名為非際．是故如來已為迦葉．如是説言
一切諸見　見空得出　若人取空　於空生見　我不能救
以此義故．師説偈言
空對一切見　是如來所説　於空生見者　彼則無對治（般若流支訳『順中論』T30. p.40b）

著者は，五蘊それぞれの無常，苦，無我などを知る善男子に対して，その理解は真実の般若波羅蜜ではないと述べる．なぜなら，それらに執着が残っている疑いがあるからである．色や，空に執着がなくなってこそ真の般若波羅蜜であると言い，教証として『迦葉品』の一部と，龍樹がその意味を反映させたとするMMK13.8を引用する．この記述から，執着と見解は同義であり，見解は空性によって断ずることができるという構図が見出せる．また，空見が不治である理由として，見解を断ずる空性に執着する場合は対治できないからであるという．このようにMMK13.8が大乗経典の記述に基づいていることを初めて指摘したのは『順中論』であるといえる．仏護（ca.470-540）『根本中論註』は次のように言う．

勝者という，如実知見のお方，慈悲の完成と結びつくお方々は輪廻に赴くもの達を哀れむがゆえに，「空性とは・・・」は，すべての見解，つまり，すべての執着から解放するものであるとおっしゃって，それ（空性）は，見解というすべての執着の否定であるとおっしゃるので，その（対論者の）「見解に対する執着の否定が実有である」〔とする〕ことは不合理である．・・・
・・・空性とは言語表現のみであるということが理解できないので，空性を実有である

NII-Electronic Library Service

The Japanese Association of Indian and Buddhist Studies

と見る彼らは，無明の大暗黒によって，智慧の眼が覆われるので，治癒できるものか不治なるものかの分析について大医王なる諸々の勝者は，彼らは不治なるものであるとおっしゃったのである．(*Buddhapālita-mūlamadhyamaka-vṛtti* D.3842. 219b4-5, 219b7-220a1)

「すべての見解」は「すべての執着」と言い換えられており，空性が執着から解放するものであると言う点で『迦葉品』と同内容である．また，空性は言語表現としてのみ存在するのであって，医者に譬えられる仏は，空性に執着するものが不治なるものであるという．空性が存在すると考え，その存在に執着し，空性を理解するものたちを空見者としている．

続く清弁（ca.490-570）の注釈書 *Prajñāpradīpa* には，

空性はすべての見解から解放する手段であると諸仏は説かれた．13.8ab
種々なる苦の種子なる「すべての見解」である．見解とは，執持と執着とである．
それらの種類は，有身見などである．それらの対治は内空などである．広大な善根をつまず，意楽が成熟せず，深い〔無生〕法忍を起こさず，道に通じていない，
空見を持つものたちは，不治であるとも述べられた．13.8cd
「これは存在する」と空性に執着する者たち，つまり「下剤薬（bskru sman *virecana）を与えられ，内にとどめるような病人の如く，種々なる見という病因によって，心が不調になったもの達に対して，それを鎮める効力のある空性という薬を与えることから，より大きな病因によって混乱した病人のようなかれら」は，勝れた薬師のような如来も，不治なるものであるとおっしゃったので，それゆえにそれ（薬＝空性）を捨てることにも過失はない．・・・　・・・我々は，空性を実有であると執着するのではない．
(*Prajñāpradīpa*.D.3853, 153a1-5)

ここでも見解は執着と等値され，具体的には有身見などのアビダルマの五見と理解している．また，cd 句に対する注釈は『迦葉品』と内容的に等しく[6]，両者の蔵訳の用語ともよく対応する．よって清弁が空性を有として執着する者を空見と考え，『迦葉品』を下敷きにして薬と病の喩えを展開した可能性が指摘できる．

また，安慧（ca.510-570）作とされる『大乗中観釈論』も，空性を有と見て執着すれば，佛によっても教化できないと解釈している．ただし比喩が述べられない分，他の注釈と比べると簡潔な印象を受ける[7]．

3．まとめ

『迦葉品』§ 65 と MMK13.8 との関係を明らかにするために『中論頌』の諸注釈書を検討した．MMK において不明瞭だった空見の意味は，青目，無着，仏護，清弁，安慧，月称の理解によると，一様に「空性を有と執着するもの」を指していた．したがって，すべての見解から解放するための空性そのものに執着してし

NII-Electronic Library Service

The Japanese Association of Indian and Buddhist Studies

まえば，薬に執着することよって病になるという喩えがあてはまる．この喩えは『迦葉品』成立段階から保存されているもので，龍樹は直接関係を語らないが，青目釈『中論』に言及され，『順中論』において初めて典拠が明記された．そして仏護，清弁，月称に至るまで空見を理解するための文脈で『迦葉品』の薬と病の喩えが継承されてきたのである．

以上，MMK に記された空見（śūnyatādṛṣṭi）の意味を考察し，その起源が『迦葉品』にあるという理解が『中論頌』注釈者達にあったことを確認することにより，MMK と般若経典以外の大乗経典が関連する一例を述べた．

1）kātyāyanāvavāde cāstīti nāstīti cobhayam | pratiṣiddhaṃ bhagavatā bhāvābhāvavibhāvinā ||
カーティヤーヤナへの教えにおいて，「有り」と「無し」という両者が，存在と非存在を熟知する世尊によって論破された．

2）cf.『大乗仏典 14 巻　龍樹論集』pp.419-420, 立川武蔵『中論の思想』法蔵館 1994, p.11

3）§ 65「薬と病の喩え」は全ての異本に収められていることから，『迦葉品』成立当初から広く知られていたことがわかる．cf.『大乗仏典 9 巻　寶積部経典』pp.336-341

4）śūnyatādṛṣṭi は「空性見」と訳すべきかもしれないが，本稿は空見（śūnyatādṛṣṭi）の理解に関する先駆的な研究，中村元「中道と空見」（『結城令聞博士頌寿記念　仏教思想史論集』1964 所収）に基づいて展開させたものであるから中村訳に従って「空見」としている．

5）中村元「中道と空見」において「空見」とは「空を有の意味に解すること」と，「空を無の意味に解すること」の２種があるという．そのうち「空を無の意味に解すること」の根拠として，月称が引用する『迦葉品』の「無に執着しているものの（abhāvābhiniveśika）空見」を挙げる．しかし，当該の *Pras* 蔵訳には，

'od srungs gang zag tu lta ba ri rab tsam la gnas pa ni bla'i, mngon pa'i nga rgyal can stong pa nyid du lta ba ni de lta ma yin no//

とあり，蔵訳者が abhāvābhiniveśika ではなく ābhimānika（下線部分 mngon pa'i nga rgyal can）を訳した可能性がある．また，引用元とされる『迦葉品』§ 64　には全ての異本に ābhimānika（憍慢，増上慢）という記述があるので，月称が引用する『迦葉品』のテキストは現行の『迦葉品』のどのテキストとも異なっていると言える．したがって，*Prasannapadā* 所収の『迦葉品』を根拠とし，月称は空見を「空を無の意味に解すること」と理解したとする中村説には疑いが残る．

6）波羅頗蜜多羅訳『般若灯論』（T30. pp.91c24-92a2）も蔵訳とほぼ対応している．

7）法護訳『大乗中観釈論』（T30. p.158c16-22）

〈キーワード〉『中論頌』，『迦葉品』，『順中論』，龍樹

（龍谷大学大学院）

NII-Electronic Library Service